

優れた環境保全活動の表彰

【信州エコ大賞】

長野県内で地球環境保全に力を尽くしている団体や個人に、協会が毎年贈呈している環境グランプリ、「信州エコ大賞」と「奨励賞」の表彰式が、9～10月に開かれる定時総会の席上で行われます。

当協会の7支部からの推薦を受けた候補先を、信州エコ大賞審査委員で慎重審査を行われ、企画委員会、理事会で承認されて表彰されるものです。

信州エコ大賞の受賞者先

| 回数 | 年度 | エコ大賞 | 奨励賞 |
|----|-----|---|---|
| 1 | 1 1 | 株式会社みすず株コーポレーション（長野市） 株式会社ナガノトマト松本工場（松本市） リサイクルシステム研究会（伊那・飯田地区） 茅野市（茅野市） | 該当なし |
| 2 | 1 2 | にっぽんこどもじゃんぐる（須坂市） 岡谷市立長地小学校（岡谷市） 飯田市地域における地域ぐるみ環境ISO研究会（飯田市） 岡正子（長野市） | 若槻団地自治会（長野市） 小沢花の会（伊那市） 蝦名国廣（松本市） |
| 3 | 1 3 | 上田自然探訪の会（上田市） 諏訪湖シャボン普及会（諏訪市） 株式会社竹屋（諏訪市） | 中部電力株式会社飯田支店天竜協働隊（飯田市） 山口文男（長野市） |
| 4 | 1 4 | 三峰川みらい会議（伊那市） | スハマ会（長野市） 上田市消費者の会（上田市） 株式会社中島屋降旗米穀（松本市） 長野県立富士見高校（富士見町） |
| 5 | 1 5 | 諏訪地域「省エネパトロール隊」（諏訪市） | 市橋恵美（飯田市） 上田市立保育園 21 園（上田市） 山富産業株式会社（松本市） 山ノ内グリーンフィールドネットワーク活動（山ノ内町） |
| 6 | 1 6 | 日置電機株式会社（上田市） | グリーンクラブいいだ（飯田市） ハッチョウトンボを育む会（駒ヶ根市） 株式会社ヤマウラ（駒ヶ根市） |
| 7 | 1 7 | 該当なし | NPO法人地域循環ネットワーク・有限会社に ゆうとん倶楽部（上田市） 信州グリナリー株式会社（長野市） 松本市立筑摩野中学校（松本市） |
| 8 | 1 8 | オムロン飯田株式会社（飯田市） 特定非営利活動団体南アルプス研究会（伊那市） | 松本南ロータリークラブ（松本市） しがっ子クラブ（諏訪市） 箕輪町立箕輪中部小学校 環境・省エネ委員会（箕輪町） |
| 9 | 1 9 | 該当なし | 巴産業株式会社（大町市） 松本市立清水小学校（松本市） 諏訪市消費者の会（諏訪市） |

| | | | |
|-----|-----|--|--|
| | | | 南信工営株式会社（伊那市） |
| 1 0 | 2 0 | 株式会社星野リゾート（軽井沢町） 伊那食品工業株式会社（伊那市） | 長野ホテルの会（長野市） 小柳産業株式会社（上田市） 諏訪市立上諏訪中学校（諏訪市） |
| 1 1 | 2 1 | エプソントヨコム株式会社伊那事業所（箕輪町） | 有限会社武井農場（安曇野市） ネクストエナジー・アンド・リソース株式会社（駒ヶ根市） |
| 1 2 | 2 2 | 該当なし | 特定非営利活動法人べとの会（長野市） 特定非営利活動法人森倶楽部 21（松本市） 駒ヶ根市立赤穂東小学校（駒ヶ根市） |
| 1 3 | 2 3 | 株式会社日本ピスコ伊那第二工場（岡谷市） | 協同組合長野県中古自動車リサイクルセンター（東御市） ひかり味噌株式会社飯島グリーン工場（飯島町） 米川会（飯田市） |
| 1 4 | 2 4 | 特定非営利活動法人やまぼうし自然学校（上田市） | 市民の森を創る会（茅野市） 寿さと山くらぶ（松本市） |
| 1 5 | 2 5 | NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師（飯田市） | 上田自然に親しむ会（上田市） 松本市消費者の会波田地区（松本市） |
| 1 6 | 2 6 | 該当なし | 新山山野草等保護育成会（伊那市） 葦木美咲（茅野市） 大町市立八坂中学校生徒会（大町市） 桐原俊郎（松本市） |
| 1 7 | 2 7 | 小泉山体験の森創造委員会（茅野市） リサイクルシステム研究会（伊那市） | エクセラン高等学校（松本市） |
| 1 8 | 2 8 | 長野卸売市場協同組合（長野市） | はなのき友の会（飯田市） 木曾町環境協議会（木曾町） 株式会社環境技術センター（松本市） |

| 回数 | 年度 | 特別賞 | |
|-----|-----|-------------------|--|
| 1 0 | 2 0 | 社団法人長野県経営者協会（長野市） | |

平成 28 年の受賞先は次の通りです。

◇第 18 回 信州エコ大賞

▽長野卸売市場協同組合 理事長 仁科 恵敏 様

当組合は会員数 80 社、業務関係者数は約 1,500 名を数え、青果、水産など生鮮品を扱う民設民営では全国でも最大規模の総合市場である。市場の運営には三団体が関わるなど、複数の組織、多数の会員企業などが関係する事業体でありながら、「日本一美しい市場」を目指して、目的意識を環境整備に統一し、積極的に活動している。ゴミ減量部門では焼却物を約三分の一に減らし、リサイクル部門では市場内に種々のリサイクル施設を設置してリサイクル率 80%を達成し、また意識啓発部門では小学生を対象とした当市場の見学会を積極的に実施するなど、多方面にわたり大きな成果をあげ、全国的にもモデルケースとなっている。

多種多様な商品を扱う雑然とした市場環境を、環境美化、資源の有効活用の観点から会員全員の参加で改善し、環境教育の場としても提供している姿勢と成果が、高く評価された。

◇奨励賞

▽はなのき友の会 代表 所沢 あさ子 様

当会は 20 数年にわたり、「はなのき」を中心とした湿地の保全活動を行ってきた。湿地はともすれば地域住民から邪魔者扱いされがちな環境であるが、当会は地道な活動を通じて住民の理解を得ながら、開発計画などに対処し、「はなのき」の自生する湿地の保全に尽くしてきた。生物多様性の保全の面からみても、保全対象地には「はなのき」だけでなく、絶滅危惧種 24 種を含め 500 種以上の植物が確認されており、竹やぶの整理、ゴミ拾い、下草刈りなど、友の会を中心に地道な活動が継続されている。その調査結果や報告も地域住民や関係者に公表され、当湿地は生物多様性の学習の場としても存在感を高めていることが評価された。

◇木曾町環境協議会 会長 角屋 岳人 様

地域住民が主体となり、教育や学習、イベントの開催、保全活動など、幅広い取組みをバランスを保って展開し、行政へも積極的に提言している。地元企業 42 社も会員であり、住民、行政、学校などと協働しながら、協議会が連携の主要な役割を担っている。人材育成の場として「きそネイチャーマイスター養成講座」を開設し、マイスターとして 48 人が登録され、受講者数は 250 名を超えている。その他、木曾檜の間伐材を利用した「マイ箸づくり教室」や路線バスを使用しての「ゴミ拾いゲーム」など、多彩な活動を実践していることなどが評価された。

◇株式会社環境技術センター 代表取締役社長 勝野 宗一 様

本業の専門技術を生かし、社員総出で環境関係者を対象としたセミナーの開催や、子どもたちを対象とした、独自の内容の環境学習講座、環境保全啓発活動を、積極的かつ継続的に展開している。社員手作りの実験器具や啓発用具は、専門的でありながら判り易く、また楽しみながら学べる、レベルの高い教材となっている。

経営トップの環境への意識が高く、一部の社員だけでなく 40 名弱の社員全員が一丸となって環境に取り組んでいることが評価された。

信州エコ大賞 受賞者の皆様

